

4 連携計画の基本的な方針

現状がそうであるように、今後も人口減少、自動車交通への依存が続くと思われ、公共交通全般において引き続き厳しい状況が続くと考えられます。

自動車への過度の依存が、利用者減少などによる公共交通の衰退を招き、更なる公共交通サービスの低下を招く。そうした悪循環を放置すれば、環境問題や少子高齢化をはじめ、様々な課題は深刻さを増していくものと考えられます。

マイカーによる移動は、高い利便性を持つ反面、他の移動手段に比して遙かに高いCO2排出量を伴うため、環境に対し大きな負荷をかけるとともに、即ちそれは後世の負担となって返ってくることを意味します。こうした負のサイクルからの脱却を図るため、各自が高い意識の下に車中心の社会を見直し、多少の不便を感じても公共交通を利用する姿勢が大切であると考えます。

また、何らかの理由でマイカーを利用できない、いわゆる「交通弱者」の方にとって、公共交通はなくてはならないものであり、今後も欠かすことのできない重要な移動手段です。

質の高い輸送サービスを提供することは、単に住民の生活の足を確保するだけでなく、多くの方が移動することによって、交流の機会や新たな商機が生まれることにも繋がり、都市の活性化に寄与すると考えられます。

このため、高岡市・射水市を結ぶ万葉線においては、引き続き安全・安心に配慮した快適な輸送サービスを提供することにより、路線の維持・活性化を図るとともに、沿線地域を中心として都市に魅力と活力を与え、利用者や地域に愛される路線をめざします。

さらに、接続する交通機関や移動手段を組み合わせた、利便性の高い環境や、誰もが乗り降りや運賃支払いに戸惑うことなく、スムーズに電車を利用出来る環境を整備することにより、利用者本位の、使いやすく効率的で効果的なサービスを提供していくことが必要であると考えます。

5 計画の対象区域

万葉線（高岡軌道線、新湊港線）の軌道、鉄道区間とその沿線地域

6 計画期間

平成22年度（2010年度）～平成26年度（2014年度）の5年間

7 計画の目標

(1) 安全・安心の輸送サービス

輸送事業の根幹である安全・安心を最優先に、今後も継続して安定した輸送サービスを提供するため、路線・路盤の整備をはじめ、必要な設備の充実・更新に努めます。

(2) 乗降環境の改善

バリアフリー環境を整え、誰にでも乗り降りしやすい、快適で質の高い輸送サービスを提供します。また、利用者がスムーズに次の目的地へ向かえるよう、他の移動手段、交通手段との接続機能を強化します。

(3) サービスの充実と魅力向上

利用者ニーズを的確に捉え、時代に即したサービスを提供することで、万葉線の利便性を高め、利用の向上に努めます。また、沿線にある豊富な歴史・文化遺産や観光資源を組み合わせた観光プランを提供したり、電車を見ること、電車に乗ることが目的で訪れたいくなるような情報を提供したりするなど、万葉線の魅力を高め、活性化に努めます。

(4) 地域や他の機関との連携強化

万葉線がこれからも安定的に存続していくためには、沿線住民をはじめ関係各所の理解と支援が不可欠であることから、地域や他の機関との連携を強化し、環境対策などとも連動した、公共交通への転換促進などの啓発や、沿線イベント等も含めた様々な情報の周知に努め、物心両面での支援が期待できる土壌づくりに努めます。